

高得点句 自句自解

十二点

⑤乗る雲を決めかねている水馬

恩田 才美

「ご当地、こども自然公園の大池の黄昏時、忙しく跳ねまわる水馬。水馬に空の雲は遠すぎるけれど、水面に映る雲ならば・・・。」

七点

②終の家と決めかねてをり草を引く

藤本 友子

七十も過ぎ、そろそろ終活の時期なのに、ちつともはかどりません。今まであれほど楽しんでいた庭の手入れや花作りも、次第に苦痛になってきています。果たして、この家は終の棲家としてふさわしいのかと考える間にも、庭の雑草はお構いなく勢いづいています。暑い中、黙々と草取りをしている時に出来た句です。

初茄子土の匂ひを吸ひにけり

増田 守

近所の茄子畑の雨上がりの後の光景である。地面の近くにある茄子の先端部には、昨夜の雨の痕跡として、跳ね反った土粒が付着していた。それは恰も茄子が土の匂いを吸い取るように見えた。

蟬しぐれ山の形でわき上がる

柏尾のり子

今年、北九州市の梅雨入り、梅雨明けは例年にない程の遅さでした。梅雨が明けた途端、山や木々に囲まれた実家では、朝早く目が覚めると、二度寝できないくらいにの蝉の大合唱で参りました。裏の山全体が蝉の声になったようでした。

六点

①紙皿がUFOとなる青岬

恩田 才美

岬馬で知られる都井岬でのこと。岬までの路すがら青芝にピクニック気分で憩う家族を目にしました。その時の子等との出合いから生まれた一句。岬から海原の空へ白い小さなUFOが次々に飛び上がる様と子等の眸と喚声と。

五点

②僕だけの秘密のノート青ぶどう

弘友 秀夫

散歩の途中、並ぶ温室の中に一ヶ所だけ入り口に鍵をかけた温室がありました。好奇心から、破れ目から中を

覗くと、それはぶどうの温室でした。他の野菜の温室は開けっ放しで、ぶどうには鍵をかけている。しかも一房一房に覆いまでして大切に育てている。はじめはその違いを素直に詠もうと思っただのですが、上手くまとまらず。そこで、青ぶどうの「未成熟感」や「大事にこつそりと育てられている状況」との取合せとして、「僕だけの秘密のノート」としました。それは日記なのかもしれないし、恋心を詠んだポエムや、ひそかに書き溜めている小説なのかもしれません。

四点

② 冷蔵庫きのふの音を蔵しけり

増田 守

日々の生活の変化の痕跡は、冷蔵庫に収納した品物やその収納状態の変化に見てとれる。冷蔵庫の扉を開ける前と閉めた後とは、微妙にあるいは大幅に異なっている。生活の変化は、冷蔵庫が収納しているのである。

① 幾万の再会蛍火の散華

恩田 才美

さすらふ魂と出会える一年の中のこの時、蛍の夜。森の闇にいつせいに数多の蛍が明滅すると聞いた。この旅を忘れられない。

禪寺へ一切無音岩桔梗

稲葉 幸

この寺は、観光寺ではないのですが、秋のこの時期は、岩桔梗を見物にやって来ます。岩の間から可愛い花が咲いています。私の背丈より高いのですが、岩の壁に張り付くように咲いています。色は赤紫のきれいな花です。

世界中不気味な動き夏の夜

平野 邦子

最近、世界中で紛争やテロ、異常気象などが毎日のように伝えられています。日本も韓国との関係が悪化していますし、米・中・ソも自国ファーストで恐ろしい方向に進んでいます。このままでは人類はどうなってしまうのだろうかという思いを不気味という言葉とけだるく蒸し暑い夏の夜を季語に入れました。